

新たに入会された皆さん
賛助会員

伊塔山河
川筋本本
健一幸敏
一造晴佳

寄付をいただいた皆さん

匿名51名
江守和
江守理恵
江守典子
松田葉月
春本拓哉
春本華子
諫山智賀子
遠座英昭
遠座昭二
野尻延宏
藤田寛之
吉松摩理子
藤田正

(順不同、敬称略 期間：2016年12月1日～2017年2月28日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 296,351円

2016年4月 1日～
2017年2月28日



ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター 会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

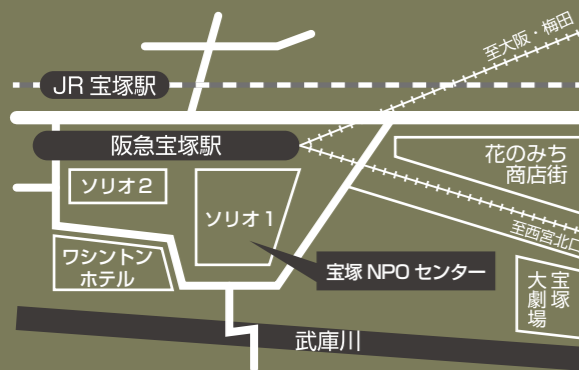
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌピーオーセンター	タカラツカエヌピーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センター ニュース

TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

90 このニュースの編集、発送はボランティア
皆さんにご協力いただいています

2017.3

落ち込んでいた患者さんの
目が輝く時を何度も見て来た

宝塚 NPO センターは
メールマガジンを月 2 回配信しています



zukanpo@hnpo.net

上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

みなさまの寄付で支えられています



http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

NPO 法人
腺友倶楽部 (前立腺がん患者・家族の会) 理事長 武内 務

● 仕事を通じた社会参加づくり

＜宝塚市就労準備支援事業及び自立相談支援事業＞

宝塚市の委託を受け、当センター内に「はたらく応援センター」を開設してから2年が経過しました。当初こそ相談者は少なかったものの、日を追うごとに増え、昨年度の相談件数は延べ 890 件、今年度に入り更に増え 1,200 件を超えています。就職に向けては、事業者の理解と協力なしには実現できないケースもありますが、思っていた以上に理解を示してくださる事業者があったことは嬉しい誤算でした。その結果として、平成 28 年度の就職決定者数は、本年 2 月末現在で 68 人となっています。

本事業の特徴は、さまざまな困りごとに対応するワンストップの相談窓口「せいかつ応援センター」（宝塚市役所内）があることです。病気や親の介護などで失業し、突然、生活に行き詰る…今や珍しいことではありません。困りごとのある人は、まずここですべてを受け止めます。そして、その中で就労したい人に対して就労機会の提供を行う「はたらく応援センター」があります。「生活」と「就労」は切り離せないものであり、それらに一体となって取り組んでいます。直ちに就労が困難な人については、「ツカベジ農園」での農作業体験、料理教室やパソコン講座などを定期的実施、自己分析、業種・職種、履歴書の書き方や面接対策などは個別に行い、一人ひとりの支援計画を相談者と一緒に考えています。今後、さらに支援メニューを増やし、一人でも多くの方が就労できるよう取り組んでいきたいと思えます。



みんなで精魂込めて作った大根です



就労に向けてパソコンを学習しています



みんなで協力して実生活でいける料理を作ります

下記の事業にも取り組みました！

● 協働の場づくり

＜きずなの家事業＞

市民と宝塚市の協働で行われる対話と交流の場づくり



利用者数 のべ 3,319 人
協力者数 のべ 711 人
(2016.4.1～2017.2.28)

＜ひょうごアドプト推進事業＞

市民と兵庫県の協働による地域美化活動支援



参加団体数 42 団体
事業参加者総数 1,462 人

● 参加の場づくり

＜100色珈琲事業＞

年齢や立場に捉われず、誰でもが参加できる場づくり



利用者数 のべ 4,277 人
協力者数 のべ 461 人
(2016.4.1～2017.2.28)

● 地域と市民のネットワークづくり

＜エイジフレンドリーシティ行動計画策定業務＞

計画策定事務局を支援しました



キャッチコピー
「おたがいさま」があふれるまちづくり

コラム

「男性のがんにも注目を！」

女性に多い乳がんは、ピンクリボン運動も盛んで患者会の活動も活発ですが、前立腺がんは男性で最も多いにもかかわらず、社会的な関心が薄く、患者会もない状態が長く続いていました。前立腺がんの治療法は多岐にわたり、一人の力では情報集めに苦労することは必至です。腺友倶楽部では、常時医療情報の提供と個別相談を行いながら、専門医によるセミナーを各地で開催し、その動画をインターネットで配信、会報にも掲載し、全国のがん拠点病院にお届けをしています。

昨年、総力を上げて取り組んだ活動があります。「ひげ」を身につけて走る（歩く）ことにより、男性のがんと健康を考えるイベント「Mo-FESTA（モーフェスタ）」の開催です。海外で 11 月に行われているモーベンパー（Mo=ひげ）の日本風アレンジであり、ピンクリボン運動の男性版と言っても良いでしょう。大阪（11 月）、東京（12 月）の 2 ヶ所で開催、多くの参加者に喜んでいただき、新聞、TV でも取り上げていただきました。

NPO 法人腺友倶楽部（前立腺がん患者・家族の会） 理事長 武内 務

取材に行ってきました！！

「知って考え、自分で決めることの大切さ」

一生のうち女性の 47%、男性の 63% はがんを患うと言われています。男性特有の前立腺がん患者・家族の会として昨年 4 月に設立した NPO 法人腺友倶楽部。中山寺からほど近い本拠地に武内務理事長を訪ねました。



腺友たちとの設立総会



東京での啓発セミナー風景



モーフェスタの様子

「一人で得られる情報には限界がある」

2004 年 10 月、50 代で前立腺がんを発症し、手術は無理と告げられた武内さん。頼みのセカンドオピニオンでは「5 年生存率 2 割」と告げられ、愛犬をがんで無くすというタイミングも重なり「不安症」に。眠れぬ日々が続く中、たまたまネットで耳慣れない放射線療法と出会い、その情報を頼りに訪れた病院では「根治率 5 割」と言われ、運命を託します。後にまとめた闘病記のブログが縁で、同様の症状と情報不足に悩む「腺友」（前立腺がん闘う仲間の意）やそのご家族と出会い、多くの相談を受ける立場になりました。近年情報量は飛躍的に増えたものの、真に役立つ情報を見つけるのは、やはりひとりでは難しい。正しい医療情報を伝えるお手伝いと共に、悩みをひとりでは抱えがちな男性にも、話すことで楽になれる場所が必要だ、との想いが法人化へとつながりました。

「腺友の歩みを支える安心感」

乳がんは患者会も活発ですが、前立腺がんはこれまで相談する場所もなく、一人で悩む人が多かったようです。「低リスクの初期がんに対し手術などの過剰な治療が行われ、副作用に困ることもあれば、治療法のあるがんでも、積極的な治療をしてもらえないケースもあります。」がんと言われただけで「死」を予感し怯える人も多いようですが、同じ患者として、もっとひどい病状を乗り越えて来たと話すと、落ち着く人も多いか。「たとえ転移があっても、そう簡単に死ぬことはありません。くよくよしても喜ぶのはがんだけです」と武内さんはおっしゃいます。

「たとえ地球が明日滅びようと、私はりんごの木を植える」

今まで接した患者・家族は数えきれず、情報発信をおこなっているブログも、近年は毎日のアクセス数が数百件を超える状況。「リアルな活動は東京・大阪が中心だが、いずれ認定 NPO 法人も取得し、活動の幅を全国の地方都市にも広げたい」のどとか。高齢化と共に増える前立腺がん。情報弱者にもなりやすい高齢者とその家族へどのように情報を届けていくかが今後の課題で、そのために地域との連携が不可欠であるとも語られる武内さん。ホームページに掲げられたルターの言葉通り、課題と真摯に向き合い、具体的な行動で応えていく姿勢は私たち NPO 活動者に欠かせないあり方だと感じました。

NPO 法人腺友倶楽部（前立腺がん患者・家族の会）

連絡先 TEL/FAX : 070-5507-6914

E-mail : contact@pc-pc.org